

## 式 辞

二年生の皆さん、本日は立志の日を迎え、おめでとうございます。また、保護者・ご家族の皆様、お子様がこのように立派に成長され、本当におめでとうございます。本日は、二年生の皆さんの立志をお祝いして下さるために、ご多用の中、原 富男（はら とみお）PTA会長様が、お越しくださっています。お世話になり、ありがとうございます。

早いもので、皆さんが西中学校に入学してから、もうすぐ二年間が終わろうとしています。生徒会や委員会、部活動など、学校生活の様々な場面で、三年生からバトンを引き継ぎ、西中学校の主役として、学校を支える大きな力となりつつある二年生の皆さん。特に最近、朝や放課後あるいは休みの日に、校内で一所懸命部活動に励んでいる皆さんの姿は、四月の頃から比べると、見違えるような成長を感じます。また、体育会での堂々とした入場行進の姿、合唱コンクールでの発表が印象に残っています。本当に、日々ぐんぐんと成長していく皆さんの姿をととても頼もしく感じています。

さて、14歳という立志の起源は、今から2000年以上前、孔子の言葉を弟子がまとめた「論語」にあります。「子いわく、吾十有五にして学に志す」「15歳で、学問の道に志を立てた。」とあります。諸国を遍歴し、儒学という国を治める思想を確立したのが、30歳の時です。一生の方向性を自ら決定し、弟子たちを教育し学問を深め、国を治めていきました。

今日は、この後、ハンセン病問題について、長島愛生園歴史館の学芸員、田村朋久さんのお話を聞きます。「論語」のなかで、孔子は、ハンセン病にかかったと思われる弟子（冉伯牛；ぜんはくぎゅう、孔子十哲の一人で徳に優れていた）を、何回も自宅に見舞い、その手を握って、「天命の何と無情なことか、君のような立派な人物が、この病に罹るとは。」と泣いたといっています。わが国では、ハンセン病について隔離政策が行われましたが、2000年以上の昔にあって、孔子はととても愛に満ちた人道的な行動をとったといえます。

孔子の時代からすると、社会も大きく変化してきましたが、14歳という節目を大切にしたいと考え、中学校二年生で立志式を行っています。これからの自分の将来を考える上で、中学校の最終学年、そして義務教育の最終学年を目前に控えた、ちょうどこの時期に「こころざしを立ててほしい」と願う式です。倉敷市では、「倉敷市よい子いっぱい基金助成事業」として、倉敷市内の全ての中学校で行われています。

皆さん、もうすぐ立春の今日の立志式にあたり、私からぜひ、皆さんに紹介したい言葉があります。「春風吹いて美しき花咲く、みんな世の中の春風になれ」です。皆さんには、一人一人すばらしいよさがあります。私たちは、自分のよさに自分自身ではなかなか気が付かないものです。春風のように温かく、周りの人々のよさ、すなわち美しい花を、引き出す人になってください。世の中の春風とは、そういう人たちです。

互いに春風となって、互いのよさを見つけ合おうではありませんか。その中で、皆さんは互いの可能性を大きく伸ばし、将来の夢を実現できると信じています。

最後に、今日、立志の日を迎えることができたのも、家族や皆さんのまわりのいろいろな人たちが支えてくれているからです。感謝の心を大切にしてください。皆さんが、今日の決意を心に刻み、これからも、学校で、家庭で、地域で、温かい春風を吹かせてくれることを大いに期待しています。

令和二年一月三十一日

倉敷市立西中学校 校長 松本一郎